



コロナ禍だからこそ、お互いに  
思いやる心を大切に

全国で新型コロナウイルス感染症が広がる中、感染への不安や恐れから、思い込みで、感染した人や家族、医療関係者、日本に住む外国人などに対し、差別や誹謗中傷などをする場合があります。しかし、コロナ禍だからこそ、正しい知識を持って責任のある行動をとることが私たち一人ひとりに求められています。

差別をしないことは、1つの感染防止対策です。差別やいじめのある社会では、感染を疑われる症状が出て医療機関への受診や保健所への正確な行動歴・濃厚接触者の情報提供をためらってしまう人が現れるなど、感染拡大を引き起こしかねません。

コロナ禍の時こそ、お互いを思いやる心を大切にしましょう。一人ひとりが相手の立場を理解し、冷静に、思いやりをもった行動を心掛けることが感染拡大を抑えます。新型コロナウイルス感染症に関する差別な

差別をなくす

人権標語 (小学5年生)

つくるつよ 仲間たち

ど、何か悩んでいることがあれば気軽に相談してください。

【相談窓口の一覧】

- 祝日を除く毎週月～金曜日 8時30分～17時15分
- みんなの人権110番 (☎0570・003・110)
- 女性の人権ホットライン (☎0570・070・810)
- 子どもの人権110番 (☎0120・007・110)
- 外国人 인권相談ダイヤル  
Telephone Counseling in ten foreign languages  
(☎0570・090・911)
- ※ 10言語に対応。
- 29日を除く  
毎週月～金曜日  
9時～17時



▲ インターネットでも相談できます



(人権啓発広報編集委員会)

三原市×三原テレビ×FMみはら連携

ミハラ発信会議⑧ 「三原テレビが高校生の『三原をPRする映像』の制作に協力」



市のシティプロモーション推進事業の一環で、三原高校2年生13人が「三原をPRする映像」を制作しました(詳しくは12ページ)。制作に協力した三原テレビ放送の清水昌宏さんに話を聞きました。

●若者目線のまちの魅力を映像に

動画制作を前に、生徒と三原の魅力について改めて意見を出し合いました。その中で「まちの人との距離感が近い」「放課後が意外と充実している」など高校生ならではの視点の三原の魅力があると気づかされました。今回はそんな三原の良さを映像で表現してみました。

●新しい魅力発信の形

今回の企画は私たち三原テレビ放送だけではなく、市内のデザイナー、映像制作会社にも協力してもらいました。高校生と放送局、そして市内の企業がコラボすることで、今までとは少し違った三原市のPRに繋がるのではないかと楽しみにしています。

☎ 広報戦略課 (☎0848・67・6007)



▲ 三原テレビ放送 清水昌宏さん